

令和5年度

明るい家庭づくり

優秀作品集



この冊子は明るい家庭づくりをテーマとした
作文・壁新聞の優秀作品集です。

豊橋市
豊橋市教育委員会
豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会
豊橋南ロータリークラブ

はじめに

家庭は、子どもたちが明るく健やかに生きていくための基礎となる最も大切な場所です。

豊橋市では、家族みんなが顔をそろえ、ふれあいを深めるために、毎月第三日曜日を「家庭の日」とし、よりよい家庭づくりを呼びかけています。また、この「家庭の日」を広く市民の皆さんに知っていただくため、二月を「家庭の日市民運動」強化月間として、「親と子の 対話を作る よい家庭」をスローガンに、家庭の日市民運動を展開しています。

「明るい家庭づくり作文・壁新聞」の募集は、小中学生とその家族の皆さんに、作品づくりを通して家庭の大切さに気づき、明るい家庭についてさらなる理解と関心を深めてもらうことを目的に、昭和五十八年度から実施しています。

今年度は、市内小中学校から作文584点、壁新聞134点（壁新聞募集は小学生のみ）の応募がありました。子どもたちの家族への関心の高さを、改めて感じています。

それぞれの作品には、家族とのふれあいを通じて感じたこと、家庭に起きたできごとから家族の絆について見直したことが、明るい家庭づくりをするために、自分が実行していることなど、それぞれの家庭の様子が生き生きと描かれています。

ここでは、応募作品のうち、作文・壁新聞の入選作品の一部を紹介します。これらの作品を通して、みなさんが「明るい家庭づくり」について、考えるきっかけとなれば幸いです。

令和六年二月

作文の部

■豊橋市長賞	二川中学校一年	紅林 琉奈……………1
「メニューはまだ三つ」		
「私にできること」	牟呂小学校五年	山田 彩友美……………2
「今日は、どんな一日だった」	牟呂小学校三年	牧野 日依……………3
「なかよし？ししまい」	多米小学校一年	大原 理乃梳……………4
■豊橋市議会議長賞		
「祖母の梅干し」	二川中学校一年	赤谷 奏芽……………5
「使わないお手つだいけん」	松山小学校五年	荒井 琴名……………6
「土井家の「どい」と見つけの木」	東田小学校三年	土井 茉莉……………7
「おにわでおやさいづくり」	松葉小学校一年	近藤 匠 晟……………8
■豊橋市教育委員会賞		
「笑ってすごすために」	吉田方中学校一年	佐藤 大介……………9
「わたしの家族」	花田小学校五年	服部 有希……………10
「さんぽで学んだこと」	杉山小学校三年	濱口 廉……………11
「ごみとうばん」	向山小学校一年	松本 菖蒲……………12
■豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞		
「我が家の季節のイベントと料理」	南部中学校一年	伊藤 結菜……………12
「お母さんへのサブライズプレゼント」	牛川小学校五年	中村 紗希……………14
「みんなが楽しめるように」	岩西小学校三年	六越 レチシア さきな……………15
「おねえちゃん」	二川南小学校一年	仲田 こまち……………16
■豊橋南ロータリークラブ会長賞		
「家族との時間を大切に」	石巻中学校一年	林 杏優……………16
「弟のあいさつ」	二川南小学校五年	紅林 菜子……………17
「えがおのためにできること」	吉田方小学校三年	佐藤 淳ノ介……………19
「たんじょうびありがとう」	花田小学校一年	北河 世良士……………20

壁新聞の部

■豊橋南ロータリークラブ賞			
「我が家のルールと私の目標」	南部中学校一年	伊藤 伶菜	
「思いやりと感謝」	古田方中学校一年	梅原 ひまり	
「ばあちゃんの意味」	玉川小学校五年	山本 千紗	
「私の大切な宝物」	松葉小学校五年	近藤 叶 椰	
「おじいちゃんのためにほくができること」	つづしが丘小学校三年	仲平 理矩	
「あなたのけんこうを守ります」	岩田小学校三年	佐藤 理子	
「えがおのひみつ」	新川小学校一年	小原 なるみ	
「おとうと」	栄小学校一年	吉田 士	
■豊橋市長賞			
「そらかな」	羽根井小学校六年	山口 叶 夢……………21	
「わくわく」	東田小学校三年	澤井 希 奈……………22	
■豊橋市議会議長賞			
「わくわく」	鷹丘小学校四年	菅生 華 絵……………23	
	鷹丘小学校一年	菅生 修 史……………23	
「ひまわり」	汐田小学校一年	高坂 琴 業……………24	
■豊橋市教育委員会賞			
「だんご3兄弟」	下条小学校四年	守田 一 颯……………25	
	下条小学校一年	守田 浩 浩……………25	
「シューター」	豊小学校二年	澤野 瑛 斗……………26	
■豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞			
「なつぞら」	鷹丘小学校四年	牧野 悠 桜……………27	
「カラフル」	東田小学校三年	馬淵 一 大朗……………28	
■豊橋南ロータリークラブ会長賞			
「えがお」	豊南小学校六年	柳谷 宇 海……………29	
	豊南小学校四年	柳谷 明 直……………29	
	豊南小学校二年	柳谷 旺 駕……………29	
「ジャンプ」	豊小学校三年	鈴木 暖 花……………30	
■豊橋南ロータリークラブ賞			
「純真」	旭小学校六年	古田 純 希……………30	
	旭小学校六年	古田 真 志……………30	
「はなこ」	羽根井小学校六年	榑 原 華 子……………30	
「ことかな」	吉田方小学校五年	梅木 琴 永……………30	
	吉田方小学校五年	梅木 奏 実……………30	
「チャレンジ」	旭小学校五年	河合 紗 弥……………30	
「コーヒー新聞」	東田小学校五年	柘植 皓 太郎……………30	
	東田小学校三年	柘植 仁 実……………30	
「にこにこ」	東田小学校三年	鈴木 侑 亜……………30	
	大崎小学校三年	辻 田 聖……………30	
「さらさら」	東田小学校三年	山口 舞 里 菜……………30	
「にしかわしんぶん」	東田小学校一年	西川 柚 希……………30	
「いっば」	つづしが丘小学校一年	古本 丞……………30	

作文の部

メニューはまだ三つ

二川中学校一年 紅林 琉奈

父の仕事は長年、夜勤があつたり不定休でした。それが去年の夏今の部署に異動になつてから、毎週末休みが固定になり、急に一緒に過ごす機会が増えました。そして、週末のお昼ご飯を作ってくれるのがこう例になつてきました。元々料理をするのが好きで時々作ってくれてはいましたが、毎週末作るので手際も味もどんどんよくなつてきて、出てくるまでが早くなりました。

お父さん食堂誕生です。食堂と言っても、メニューはほんの少ししかなくて、注文もそんなに通らない、店主お任せ気まぐれな店ですが、家族でよく使うお店です。

父が最近一番はまっているのがうどんです。よくお店で食べるねぎやかまぼこの乗った温かいうどんではなくて、そぼろや温泉卵が乗っているレモンをしばって食べるという冷たいうどん。休みの日早起きな父は、午前中から頭とはらわたを取って下処理したにぼしと、水に浸した昆布でだしを取って、しょうゆやみりんを入れておいしいつゆを作り、冷蔵庫で冷やしておきます。だしを取っている時の部屋中に広がるにおいはたまりません。すごく計画的で、手間がかかっていると思います。

「温度と情緒が大事だからー」
が口ぐせで、どちらかというと家族のためというより自分がおいしいものを雰囲気よく食べたい一心で作っているような気がするけど、それでも夏に冷たくておいしいお昼ご飯が食べられるのはうれしし幸せです。

それから、定番のチャーハン。わが家ではみんな、お父さんチャーハンと呼んでいます。一番昔からある定番メニューで、一番食べなれている味です。父の料理ブームはチャーハンから始まりました。具は毎回少し違うけど、定番のハムと人参と卵とねぎ。これが好きです。人参がすごく大きく切つてあつて、母の作る料理にはない大きさだけど、少し多めの油でしっかりと炒めてあつて人参が甘くてこれはおいしいんです。チャーハンのすごさは、野菜嫌いな弟も人参がばくばくいけて、小さいねぎが乗っているだけでよける妹も、ねぎの存在を気にせずに食べるどころだと思えます。味が濃くて、カロリーも高そうなお父さんチャーハンを私はいつまで好きなのかは自分でもわからないけど、父が作るこの味が私は大好きです。

チャーハンもうどんも、何回も何回も作りこんでだんだんおいしくなつて味も安定し、今はすっかり手際よく、よく作るお店の看板メニューです。お店みたいにくすぐくパラパラでもないしきれいに丸く盛りつけてある訳でもないチャーハン。お店みたいに素敵な食器によそわれるわけでもないうどん。机までもちろん運んでくれないし、子供用にと取り分けてくれるわけでもない。自分の分を最高の温度で食べたいから先に食べ始めてしまうし、結構自分中心。それなのに私は、父が作ってくれるのがうれしくてつい喜んでしまいます。

情緒の意味が初めはよく分からなかったけど、つまり雰囲気大事という事が段々分かってきました。確かに、プリントや飲み終わったコップが置いたままの机よりも、何もかもきれいに片付けて目からもスッキリ心も落ち着く環境で食べる方がおいしい気がします。

父が料理を作ると、母の時には起こらないことが起こります。食べる机を片付けてきれいにふいて、はしやお茶を用意しておく。こだわりが温度と情緒だと何度も言つてきて、できたてを最高の状態で食べないと

いけないので、いつでも食べ始められるような準備が必要なわけですが。最初はそれが少し面倒だったけど、家族イベントのような時間になっていて楽しんでいきます。そして、次の動きを予測するため一体感が生まれ、みんなで一緒に食べるため家族団らんの時間が自然と生まれます。父が料理をするという事は、わが家の仲良しのひけつなのではないかと思えます。私の大大好きなお父さん、これからもおいしいご飯、いっしょに食べようね。

◎豊橋市長賞

私にできること

牟呂小学校五年 山田 彩友美

「おはようございます。今日も暑いから水分とってね。サッカー行つてきます。」

「おはよう。がんばってね。」
毎日の私とはあばのけいたい電話のやりとりです。ばあばはまだなれないので小さいつを打つことができません。たまに会いに行くときにやり方を教えてもすぐ忘れてしまうみたいです。

「びよういんに行つてきます。」の時は心配しました。美容院なのか病院なのか分からないからです。そういう時には電話して聞いています。

私とはあばのやりとりはもう少しで二年になります。
私は自分のけいたい電話は持っていません。私とはあばとやりとりしているのは、じいじのけいたい電話です。

二年前の夏休み、私のサッカーの試合がちょうど始まる時間にじいじ

は亡くなりました。

じいじは救急車で運ばれてから、ずっと入院をしていました。何度かお見まいに行きましたが、コロナのこともあり病室には入れませんでした。駐車場から手をふることでしかできず、遠くから小さなじいじの顔を見ることしかできませんでした。

私にできることを考え、まずはビデオ通話を試みることにしました。喜んでくれると思っていましたが、じいじは音が気になってしまい、なかなかうまくいきませんでした。

次に考えたのが絵手紙でした。毎日お母さんは病院に行つていたので、届けてもらうことにしました。

これが大成功でした。じいじは毎日楽しみにしてくれていました。絵手紙を病室にかざつて病院の人にうれしそうに見せていたようです。

私も最初のうちは学校のこと、サッカーのこと、書きたいことがたくさんありましたが、毎日のことだったので、だんだん書くことがなくなつてしまひ大変な時もありました。でも、じいじが楽しみにしてくれているのがうれしくて、毎日続けることができました。毎日書いて五〇枚をこえたころ、初めてお兄ちゃんが絵手紙を一緒に書きました。その日はお兄ちゃんの誕生日でした。そして、その日にじいじは最後まで私たちに会うこともできません、天国へ行つてしまいました。

じいじが亡くなつてしばらくは毎日いそがしく過ぎていきました。毎日書いていた絵手紙もなくなり、さみしさだけが残っていました。

ばあばも同じであまり会うことはありませんでしたが、お母さんから元気がないよと聞いていました。

その日からばあばを元気にする事はなんだろうと考えました。近くに住んでいないので毎日会うことはできません。

「でも毎日元気にいるか気になる。そういえば、ばあばの家に行った時、

◎豊橋市長賞

「今日は、どんな一日だった。」

牟呂小学校三年 牧野 日依

「今日は、どんな一日だった。」

お母さんは、毎日ふとんに入るとかならずわたしに聞いてきます。

「今日は、クラスで育てているメダカのことをきゆう食のほうそうで発表できたんだよ。」と話しました。お母さんは

「すごいね。みんなでいっしょうけんめい育てていたもんね。うれしかったね。」

と言ってくれました。お兄ちゃんも

「ほくもそれ聞いた。すくく元気に発表しとったね。」

じいじの使っていたけいたい電話がさみしそうに置いてあったなあ。」

すぐにお母さんに相談しました。そして今のばあばとのやりとりが始まりました。ばあばは最初使用方が分からず大変でしたが、今では毎日忘れずにメッセージを送ってくれるようになり、少しずつ元気になりました。これからも続けていくつもりです。

コロナが流行したことで、当たり前前に会えると思っていただけに会うこともできず、いっぱい一緒にやろうと思っていただけに、いっぱい見せたかった姿もみせることができませんでした。

みんなと元気に過ごしているのは当たり前のことではなく、すくく幸せなことで、今を大切に生きていきたいなと思いました。そのために、私にできることは何かをこれからも考えていきたいです。

とほめてくれました。わたしは、とてもうれしい気持ちになり、明日もがんばるぞと思いつながらねわれました。

また次の日お母さんは聞きました。

「今日は、どんな一日だった。」

「今日は友達とけんかして、むしされちゃった。すくくかなしかった。」わたしは、ふとんの中でなけてしまいました。お母さんは、

「話してくれてありがとう。かなしかったね。けんかをするのは、仲がいいしるんだよ。どうでもいい相手とはけんかしないよ。明日もう一度話しておいで。」

と言ってくれました。わたしの心は、ぼかぼかあったかくなりました。お母さんは、つづけて言いました。

「いい事もわるい事もふとんの中ならすなおに、話せるね。ねる前に全部話して、すつきりしようね。」

わたしは、それから毎日ふとんに入ったらお母さんに話すようにしました。

ある日お母さんと弟がけんかをしていました。お母さんは、夕ごはんの時もおふろの時もおこった顔をしていました。少しこわかったけどどうしたらいいかわかりませんでした。ねる時間になりふとんに入ると、わたしは聞きました。

「お母さんは、どうしておこっているの。」

「おし事でいやな事があって帰って来たら、弟がずっとふざけていて、おこれちゃった。ごめんね。」

お母さんは、はずかしそうに答えました。さっきまでおこっていたお母さんがふとんに入ったらすなおに話してくれたので、わたしは、とてもうれしくなりました。いつもは、自分の話をするばかりだけど、自分から聞くのもいいなと思いました。

それからわたしは毎日ふとんに入ったら、「今日は、どんな一日だった」と一番さいしょに聞くようにしました。お母さんだけではなく家ぞく全員に聞いています。いい事があった日はみんなでよろこんで、わるい事があった日はみんなはどうしたらいいかいつしよに考えて、明日もがんばろうという気持ちになれるのでとてもうれいす。とくべつなことが何もなかったと思える日でも、ねる前に一日をふり返ることで、楽しかったことやいやだったこと、うれしかったこと、かなしみが、やる気につながるので、これからも「今日は、どんな一日だった」と家ぞくと話していきたいです。

◎豊橋市長賞

なかよし?ししまい

多米小学校一年 大原 理乃栞

「もう、ねえねしらない!」
「ねえね、あっちいって!」

わたしには三さいのいもうとがいます。いつも、いもうとは、わたしにばっかりおこったり、ちよつかいをだしてきたりします。わたしが、おかあさんのとなりにすわっていると、たたいてきて、あっちいってといつてきます。でもわたしが、ちよつとやりかえすと、すぐになきます。なかく、おままごとをするときもあるけれど、すぐにけんかになります。わたしは、四にんきょうだいの三ばんめです。ちゆうがくせいのおにいちゃん、しょうがく三ねんせいのおにいちゃんもいます。でもいもうとは、わたしにばかり、あっちいってといつてきます。

あるひ、わたしがしゆくだいをしていたら、いもうとがとなりにきて、ぬりえをはじめました。わたしは、しゆくだいがおわたたので、しゆくだいをそのままにして、おやつをたべていました。もどつてみると、わたしのしゆくだいに、いもうとが、らくがきをしていました。わたしは、いもうとに、おこつてなきました。けしごむで、けすこともできなかつたので、おかあさんがれんらくちように、じじょうをかいてくれました。わたしが、ないていたら、おかあさんが、わたしが三さいのときも、おにいちゃんの、しゆくだいにらくがきをしたことがあることを、おしえてくれました。おかあさんから、

「おねえちゃんのこと、だいすきで、ぜんぶいっしよがいいから、いろいろしてしまうの。ゆるしてあげてね。まだわからないこともおおいから、しゆくだいは、ランドセルにすぐにしまうようにしようね。」
といわれました。わたしは、びつくりしたけれど、とてもうれしくなりました。

けんかもたくさんするけれど、いもうとはわたしにいつもくつついてきて、やっぱりかわいいです。これからもきょうだい四にんでけんきになかよくしていきたいです。



祖母の梅干し

二川中学校一年 赤谷 奏芽

私は梅干しが苦手です。スーパーやコンビニなどで販売されているものを食べることが出来ません。しかし祖母が作る梅干しだけは、小さいころから大好きです。塩味が強く酸っぱさとの相性はとても良いです。

祖母は数年前から病気にかかり梅干し作りが、難しくなっていました。話を聞くと梅干し作りは、重労働だと祖母は言います。

病気のせいで筋力が低下した祖母には、とても難しい作業が多かったのです。そこで祖母の梅干しの味を引き継ぐため、私は祖父と一緒に梅干し作りを今年から始めました。祖母から梅干し作りの工程を聞き、祖父と材料の用意をしました。材料は、南高梅黄色く熟したものの一キログラム、粗塩二百グラム、重石一キログラム程度のもの、落としぶた一枚、容器、ポリ、ホーロー、かめ等、焼酎二十五度のものです。

まず最初に、買ってきた梅を水洗いしてよく水気を取ります。次に梅のへたを取ります。へたを取る際につまようじを使用するのですが、梅を傷つけないように慎重に行うことがとても難しかったです。へたを取り終えたら、梅と塩を容器に入れて、重石をして四日くらい経つと、梅酢が上がってくるのでそこに赤紫蘇をいれ三週間くらい待ちます。大体、梅雨が明けるころに梅と赤紫蘇を一緒に天日干しをして、完成です。

実際に祖父と一緒に試みて、梅のへたを取るにも時間がかかりますし、塩や重石がとて重くて、大変でした。病気になる前の祖母は一人でこの作業をしていました。とても大変な作業を行って、私が大好

きだと言っていた梅干しを作るのは本当にありがたいなと思いました。それと同時に家族みんなで作業すればもっと早く、そしてたくさん梅干しができるのではないかと思いました。今回は祖父と二人で作って、祖母はアドバイザーとして参加して、参加している間も色々な話をしました。梅の干し方がきちんと干していて、祖父母に几帳面な性格だなと言われたり、部活動の練習について話をしたりと、有意義な時間だな、と思いました。そこで私は、思いました。父や母、妹も誘い、みんなで梅干し作りをすれば、普段忙しくなかなかなかゆつくり会話ができなくても作業中に話ができるし、良い思い出となるし、たくさん梅干しが作られ食べることが出来ます。大変な作業ではありますが、それと同時に家族として有意義な時間がえられると思いました。作ってみて感じたことですが、祖母の梅干しには、特別な何かが入っている訳ではありません。隠し味もないし、普通の梅干しの作り方と一緒にです。祖母は私が「おばあちゃんの梅干ししか、食べられない。」という言葉をうれしく思い、毎年一生懸命つくってくれていました。梅干し作りをおして、食べてくれる人のことを思いながら、作ることの大切さを学びました。今年の梅干しも無事に完成することができました。初めて作った梅干しは祖母の作った梅干しより少しすっぱさを感じました。同じように作ってもやはり祖母の味とは違う気がしました。来年は、祖父母も、交えて家族みんなで梅干し作りをして祖母の味を引き継いでいきたいなと思っています。そのためには祖父母との交流を増やしていく必要があります。交流をすることで、家では学ぶことが難しい焼きいも作りや庭の花だん作りなどを、祖父母から教えてもらうことができます。それらは私にとってもとても良い経験と思い出になり、大人になっても忘れられないと思います。

◎豊橋市議会議長賞

使われないお手つだいけん

松山小学校五年

荒井 琴名

低学年のころから、両親のたん生日には毎年、手紙とプレゼントをわたくししています。でも、おこづかいが足りていないし、一人で買いに行けないので、何をプレゼントすれば両親が喜んでくれるのか、なやんでいます。

高学年になり、四年生の時に、一つのアイデアを思いつきました。それは「お手つだいけん」を作ったという事です。ありきたりな気もしたけれど、いつも家事で大変そうなお母さんを、目の前で見ていたので、お手つだいけんがあれば、お母さんも喜んでくれるだろうと思いいプレゼントしようと決めました。

まず初めに、どんな種類のけんをわたそうか考えました。たくさん考えた結果、「お皿あらいけん」、「せんたく物たたむよけん」、「買い物手つだいよけん」などに決めました。それを紙に書いてけんにしました。これらは、わたしから見ると、お母さんがいつも大変だろうなと思つていたので、お手つだいが出来たら喜んでもらえるだろうな、という自信がありました。

そして、お母さんのたん生日が来ました。家族でパーティーをしたりして、とても幸せな一日です。いよいよわたしが手作りのプレゼントをわたす時が来ました。少し照れてしまったけれど、「おめでとう」と言いながらお手つだいけんをプレゼントしました。お母さんは、びっくりしていましたが、とても喜んでくれました。わたしはお母さんのその

笑顔を見て、良いアイデアを思いつくことが出来て良かったな、お母さんに喜んでもらえてわたしもうれしいな、と思いました。

しかし、です。お母さんは何日たっても、わたしのおくったお手つだいけんを使ってくれません。けんを使うことができる家事をしている時も、つかれているように見える時も、全然使ってくれません。はずかしかったけれど、わたしの方から「お手つだいけんを使っても良いよ」と直せつ言つても、お母さんは「また今度にするよ」と笑うだけです。それは、五年生になってからお父さんのたん生日にプレゼントしたお手つだいけんの時も同じでした。お父さんはとても喜んでいたので、今の所、一回も使つてはくれません。

わたしはとてもショックでした。両親とも「うれしい、ありがとう。使わせてもらうね」と言つていたので、実さいはちがいました。そこで思い切つて、なぜ使つてくれないのか、両親に聞いてみました。すると、答えはわたしが思つていたのではちがいました。お母さんは、「何も言わなくても、進んでお手つだいでくれるからだよ」お父さんは、「作つてくれた時の気持ちや、お手つだいをしたいと思つてくれたやさしい心を持つてくれたことがうれしくて、もったいなくて使えないよ」と言われました。両親が、そのように思つてくれて、お手つだいけんを使わずに大切にしまつていてくれたのだと知つて、とてもうれしくて作つて良かったと思ひました。

お手つだいけんは、家族の思いやりの気持ちをつなぎ合わせる、大切な物となりました。お手つだいけんを使わずに、しまつておいてくれているのは、わたしの気持ちも両親が心の中にしまつておいてくれているあかしだと感じました。最初は、使つてくれなくて不満だったけれど、両親の本当の気持ちを知ることができたことで、進んでお手つだいができるようになりました。

家族は、おたがいのことを大切に思いながら、毎日過ごします。家族のことを考えると、いつもやさしい気持ちになれるので、わたしは家族が大好きです。家族みんなが、いつまでも楽しく笑顔でいられるように、これからお手つだいをしたり、両親を支えていけるそんな在りたいです。

土井家の「どいいとこ見つけの木」

東田小学校三年 土井 茉莉

「りんごの木！」

わたしは、妹とけんかしてしまつたら、こう言うことにしています。そうすると、口から次々にとび出していた悪口が引っこみまます。

わたしの家には、りんごの木があります。と言っても本物ではありません。木のみきは、たく配便のダンボールのすき間に入っていたくしゃくしゃの紙でできています。お母さんが作りました。はじめはかれ木だつたけど、だんだん実がふえて、今ではええだいつばいに実がなっています。この実は、りんごの形のふせんです。一つ一つりんごには、家族のいいところが書いてあります。これが、土井家の「どいいとこ見つけの木」です。

わたしのクラスには、友だちのいいところやありがたの気持ちや伝え合うお手紙カードがあります。家に持って帰ってきたお手紙カードを見て、お母さんが、

「これ、いいね。家でもこういうのやつたら、まこちゃんとおちゃんの

けんかもへるかや。」

と言いました。わたしは、

「たしかに。楽しそう。画用紙取ってくるね。」

と言って、早速じゅんぴに取りかかろうとしました。そしたら、お母さんが、

「じゃあ、まこちゃんが、いいとこ見つけの係になって、やり方考えてくれる？」

と言ったので、

「まかせて。せつ明書を書くね。」

と答えました。

お母さんと話し合つて、いつでも読めるように、ふせんをかべにはることにしました。葉っぱの形のふせんをさがしにお店に行つたけど、見つからなかつたので、インターネットでさがしました。りんごのふせんを見つけたとき、これだと思いました。

わたしが、せつ明書を書いてかべにはつたら、いちばんに妹がわたしのいいところを書いてくれました。わたしも家族のいいところを書いてどんだんはりました。

ふせんをはるついでに、家族が書いたふせんを読みます。いつも妹がほめられているのを聞くと、え？わたしは？と思つて、くやしくなりまます。でも、お父さんやお母さんが妹のいいところをふせんに書いていても、なおもがんばつてるんだと思えます。同じくらいわたしのいいところも書いてくれていて、妹にまけてないと思えるからだと思います。

ほかにも、妹が書いた「まこちゃん、新体そうおしえてくれてありがたう」というふせんを見つけてました。わたしはいいことをしたつもりじゃなかつたのに、と思いました。でも、よく考えたら、わたしは妹が新体そうを習い始めたばかりで、ひとりだけできないと心配になるんじゃない

いかと思つて、教えてあげたことを思い出しました。ふせんから妹の気持ち伝わつてきてうれしくなりました。

「どいといとこ見つけの木」があつても、やつぱり妹とはけんかをしてしまいます。でも、お母さん、安心してね。わたしは、なおちゃんのことをとても大切に思つてるよ。

◎豊橋市議会議長賞

おにわでやささいづくり

松葉小学校一年 近藤 匠晟

ぼくは、あかちゃんるとき、みどりのやささいがだいっきらいでした。とくにピーマンはにがくていやでした。それを見て、おとうさんがひらめきました。

「おにわでやささいをつくらうー」

ピーマン、きゅうり、なす、トマト、スナップえんどう、サニーレタス、とうもろこし、さつまいも、ねぎ、にんにく、ブドウ。たくさんのやささいをつくりはじめました。ぼくのおしごと水やりです。ホースで水やりをするときに、にじがみえるのがすきです。ぼくは、はっけんしました。きゅうりのはっぱも、ひまわりのはっぱもちくちくで、ハートのかたちをしています。

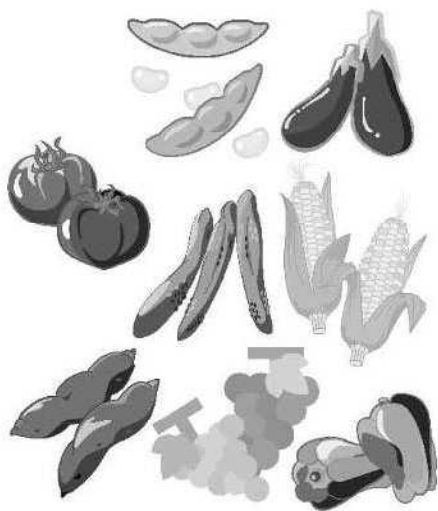
七月になると、しゅうかくできるようになります。おかあさんはいっぱいのおやささいにびっくりします。やおやさんみたいです。おやささいをたべられなかったぼくは、くちたべて、めをかがやかせました。ぼくのころをうごかしてくれて、むしゃむしゃたべました。おねえちゃんた

ちは、まい日、きゅうりとナスでおつけものをつくってくれます。まい日、ぬかどこをまぜてくれます。ぼくのおうちは、まい日、おやささいパーティーです。

でも、きよねんはかなしいできごとが二つもありました。一つめは、たいふうでおにわがめちやくちゃんになったことです。たのしみにしていたトウモロコシが、ぜんぶたおれてしまいました。トマトもころがりおちていました。二つめは、だいすきなさつまいもが、すこししかしゅうかくできなかったことです。おとうさんは、ねっしんにおやささいづくりのべんきょうをして、きろくもかいています。

「おやささいづくりは、むずかしいな。」

かていさいえんをして、五ねんたちました。きらいだったおやささいも、だいすきになりました。これからもげんきでいるために、おやさいはたいせつなごはんだとおもいました。これからもみんなできようりよくして、おいしいおやささいづくりをつづけていきたいです。



笑ってすごすために

吉田方中学校一年 佐藤 大介

僕達佐藤家が、楽しくワハハと笑って過ごすためにに行っている工夫は、四つあります。

まず、一つ目は、夕飯のときに部屋の明かりの代わりにろうそくを灯してろうそくの明かりで食事をします。このことを佐藤家では、「キャンドルナイト」という一つのイベントにしています。これを始めたきっかけは、小学生のころに社会科での授業で、地球温暖化について知り、少しでもいいから電気を節約しようとしたのがきっかけで、このキャンドルナイトを始めることにしました。最近では、お姉ちゃんが高校に、僕が中学に進学したりしたため、家族全員そろってでの夕飯は前ほど多くはありませんが、それでも家族全員で食べられるという時は、キャンドルナイトをしています。ただし、このキャンドルナイトにも一つ問題があります。それは、キャンドルナイトでは、なぜか普通に食べる時より、とても話が盛り上がり、そのせいで夕飯が非常に長引いてしまいます。ですが、家族で楽しく夕飯を食べることが出来て、それもまた、キャンドルナイトの楽しさです。

二つ目は、家族の間で「ありがとう」を伝えることです。

佐藤家では、互いに感謝を伝えることで、気持ちよく生活が出来るようにしています。これは、僕がまだ小さいころから続けていることです。僕が小さいころは、親の仕事のつごうで家族全員がいっしょにいるという時間は多くありませんでした。なので、その短い時間を気持ちよく過

ごすことができるようにと考えた所、普だんの感謝を伝えるようにしたのがきっかけです。しかし佐藤家ではありがとだけでなく「いってらっしゃい」や「お帰り」など、身近な所でも心を込めて言い感謝を伝えるようにしています。

三つ目は、家族全員のそれぞれの予定を書き込む「ファミリーカレンダー」というカレンダーを作っていることです。

ファミリーカレンダーとは、家族全員の学校や仕事の予定、行事、習い事や誕生日などいろいろなることを書き込むことができ、家族の間で共有することが出来ます。ファミリーカレンダーを元に、キャンドルナイトをする日や家族で出かける日などを決めたりと、家族での予定を立てたり、他にも、個人の予定を確認したりと、いろいろな事に役立ちます。あと、ファミリーカレンダーは、家族全員が見るので、空いている場所を伝言に使ったり出来るのでとても便利です。

四つ目は、ご飯中やおやつ中は、スマホやテレビを見ないことです。

佐藤家では、ご飯中やおやつ中は、スマホやテレビを見ません。それは、一人でご飯やおやつを食べる時は別に良いですが、二人以上で食べる時は、スマホやテレビを見るとそつちに集中して、せっかくの家族との時間なのに無だになってしまふと考えるからです。でも見ないおかげでご飯やおやつ中は、学校などでの出来事をしっかりと話すことができ、キャンドルナイトほどではありませんが、楽しくご飯やおやつを食べられます。他にも佐藤家では、ご飯やおやつ中以外にもテレビなどをつけません。それは、車の中です。佐藤家は、車にテレビを付けません。それはやっぱり話は盛り上がりつつ楽しいですが、どうしてもテレビが車に付いているのはうらやましく思います。でもやっぱり景色を見ながら家族でドライブするのは一番楽しいです。それに景色が綺麗だともっと楽しいです。

こうして、僕達佐藤家は、楽しく笑って過ごすために、いろいろな工

夫をしています。最近では、家族全員がいそがしくなり、家族での時間は減りましたが、それでもこの四つの工夫を生かし、家族での短い貴重な時間を、将来、「あの時は楽しかった」と思えるぐらい笑って楽しく過ごせるようにしたいです。

◎豊橋市教育委員会賞

わたしの家族

花田小学校五年 服部 有希

わたしの父は仕事の関係で、わたしたちとはなれてくらしています。学校で友達が、

「昨日、うちのお父さんたら夕ご飯のときにね、・・・」

などと楽しそうに話しているのを聞くと、うらやましく思うこともありまます。学校であった出来事やうれしかったこと、がんばったことなど、わたしは家に帰ると母や祖母に話して聞いてもらいますが、父に話す機会は少ないです。

昨年くらいまでは、父と話したいとき、夜ねる前に父に電話して聞いてもらっていました。楽しかったことを話すと、父もいっしょに笑ってくれ、くやしかったことを話すと、わたしの思いを受け止め、やさしくはげましてくれました。

「有希ちゃんの声を聞いていると、お父さん、元気が出て、またがんばれるよ。」

との言葉に、わたしも同じーと思いつつながら照れ笑い。電話を切った後も温かい気持ちが続きました。

でも、いつもかも電話でお話できるわけではありません。電話に出られない日もあれば電話に出て、

「ごめんね。お父さんまだ仕事で長く話せないんだ。」

と言われることもあります。すまなさそうな父の声に、わたしも

「ごめんね。急ぎじゃないから、また今度お話しするね。」

と言って急いで電話を切ります。期待でいっぱいだった心が一気にしぼんでいく感じがします。それを知ったか、父は仕事を終わらせてから電話をくれることがあります。でも、わたしも妹もねむさをがまんできず、ねてしまっていることが多いです。

「電話おそくなつてごめん。ゆつくり休むんだよ。」

との伝言を朝になってから聞き、心がいたみます。父は早く仕事を終わらせてわたしたちと話す時間を作ってくれようとしたのに。

父に元気で、笑顔でいてほしいだけなのに、「ごめん」が増えていくのがとても切なかつたです。それを母に話したら、

「じゃあ、お父さんに手紙出してみる？」

と提案されました。「電話は相手の時間をうばうもの。手紙は自分の時間を相手にプレゼントするもの」母がよく口にしてる言葉通り、話すのはかん単なのに手紙にするのは思っていたよりずっと大変で、初めは何をどう書こうか、とてもなやみました。何日もかかつてようやく書き上げ、ポストに出しに行きました。すごい達成感です。そろそろ届いたかな？読んでくれたかな？ワクワクが止まりません。

何日かして、父から返事が届きました。父は「仕事のつかれがふき飛んじやうくらいうれしかった」それで、わたしも苦労して書いたかきがありました。手紙は何度も読み返せるし、自分のペースで読めるので良いなと思つていましたが、「ありがとう」や「大好き」などふだん思つていても照れくさくて言えない言葉も伝えられて良いです。「ごめん」がた

くさんの「ありがとう」に変わりました。

最近の話題は母と作る料理のことです。

「このミートソース、お父さんも大好きだね、母さんが初めてお父さんに作ったとき、お父さん三回もおかわりしたんだよ。」

「このキュウリの塩こん布あえ、三才だった有希ちゃんが初めてお父さんのために作った料理なの。」

など、どの料理にも家族の思い出がつまっています。母と妹と三人で笑いながら作る料理は最高に楽しいです。それを手紙に書くと、父も覚えていて、あの時こんなこともあったと続きを覚えてくれることもあります。

はなれてくらししているも心がつながっているのが家族だと思うので、これからもおたがいを思いやる心を大切に、仲の良い家族でいたいのです。

◎豊橋市教育委員会賞

さんぽで学んだこと

杉山小学校三年 濱口 廉

ぼくは、今年の夏休みに、朝のさんぽをかあちゃんとお姉ちゃんと弟二人とぼくの五人ではじめました。夏休みがはじまってすぐのある朝、たたきおこされて、さんぽにつれていかれました。家から杉山駅をおつて学校をおつてから家にもどるコースでした。かあちゃんにさんぽに行く理由を聞いてみたら、「体力づくりー」と言っていました。ぼくは朝から体力づくりなんてっておもいましたけど、とにかくやってみることにしました。

朝のさんぽで一番たいへんだったのは、朝五時に起きてすぐ着がえて

さんぽに行くことでした。ぼくは、休みの日に早起きがきらいです。だから五時に起きるのがとてもいやでした。でもきまった時間ねて早く起きるようにしました。早ね早起きは、よく聞く言葉だし、やるのは、かんたんだと思っていました。でもじつさいは、早起きするために早くねないといけない。早くねるために早くよくをしないとイケないということがわかりました。ぼくは、早ね早起きががてだから、くふうして早ね早起きがきらいにならないようにしたいと思いました。

朝のさんぽは、毎回つづけるのもたいへんでした。毎回同じ時間に同じことをやりつづけるのがすごくたいへんでした。でもさんぽをした日は、時間にゆとりがあつて楽でした。夏休み前は、学校に行く前の時間がぎりぎりでした。自分が時間を見てなかつたのでかあちゃんにがみがみ言われてました。これからは、時間をまもつて学校のじゅんぴをしたいと思っています。

朝のさんぽには弟二人もつれていきました。みんながじゅんぴしないといけないから、自分のじゅんぴだけじゃなく、弟二人をじゅんぴさせるのがたいへんということがわかりました。一番下の弟は、ベビーカーにのせてぼくが走っておしました。そしたらなぜかわらつて、すぐくたのしそつたので毎回走つて、おすことにしました。はじめは、ぼくの足がいたかつたけど、なれてくるとスタートからゴールまで、おしてもつかれませんでした。ぼくは、あいさつがにがてです。でも一番下の弟は、ぼくとちがつて、いろんなものにきょうみしんしんで、弟がすれちがう人に声をかけるので、ぼくがあいさつしやすかつたです。これからは、あいさつをするきもちをもちながら、まわりをみてあいさつをしたいと思います。

いやいやはじめた朝のさんぽで、体力づくり、早起き、あいさつがいつべんにやれることがわかりました。これからはさんぽをつづけたいです。

弟が二人いてじゅんぴも行くのみたいへんけど、やさしくてつだつてあげたりして、みんなで楽しく元気に、いろんなことができるように、ぼくが考えてこうどうしたいと思いました。

◎豊橋市教育委員会賞

ごみどうばん

向山小学校一年 松本 菖蒲

あるひ、おねえちゃんとおにいちゃんが

「しょうぶくんもそろそろゴミだしとうばんしてみよう？」

といつてきました。ぼくはゴミとうばんつてなにをするのかなとおもいました。おかあさんにきくと、

「ゴミだしとうばんは、ゴミのしゅるいをわけて、ようびごとにゴミをだしにいくだよ。」

といました。ぼくはゴミをだしにいくことはわかったけれど、どこにいくのかなとおもい、もういちどききました。すると、おにいちゃんが

「いっしょにいく？」

といつてくれて、ついでいくことにしました。

ゴミをするばしょは、いえのまえのしんごうのあるおうだんほどうをわたり、ひだりにいつてみぎにまがったところでした。きいろのあみのなかにゴミぶくろをおいて、またきたみちをもどりました。おにいちゃんに

「もう、いきかたわかる？」

ときかれて、ぼくは、

「たぶんわかるよ。」

とこたえました。

つぎのゴミをだすひに、ぼくはひとりでゴミだしにいきました。そのひのゴミは、ビンとカンのはいつたふくろでした。

「いつてきます。」

といつとおかあさんが

「しんごうをよくみて、あおになつても、くるまをみてからわたつていつてね。」

といました。はじめてのゴミだしは、すこしきんちようしたけれど、かえつてきたら、かぞくに

「しょうぶくんも、もうゴミだしできるね。」

「ゴミぶくろがかるいピンカンゴミたんとうだね。」

といわれました。

ぼくはいま、かぞくでぶんたんしているゴミだしとうばんのいちはんです。

◎豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

我が家の季節のイベントと料理

南部中学校一年 伊藤 結菜

「まだ交代の時間じゃないの？」

順番を待つている双子の妹が母に聞く。

私の母は料理やスイーツを作ることが得意で、私達を笑顔にしてくれている。

小学校から帰ってくる時、家の方から甘い匂いがしてくると、母が何かを作ってくれているのではないかと妹と走って帰っていた。

小学校三年生になった年、私達は母の料理している姿を見て手伝いたい！と思うようになった。

私達は、特に旬の食材を使ったスイーツが好きだ。普段食べているものとは違って特別な感じがするのと、実際には、その時期にしか食べられないものが多いからだと思う。

その中でも大好きな栗きんとんは、初めは祖母が作ってくれていた。その後、祖母の家とは距離が離れているため、母が作ってくれるようになった。

和栗のあの味がたまらなく好きで、温かい緑茶と一緒に食べるおやつタイムは最高だ。

材料は栗と砂糖だけで、作る工程を聞いただけだと簡単そうに思ったが、実際に一緒に作ってみると、栗を一時間ぐらいゆで、ゆでた後に栗の中身をスプーンで取り出す作業や裏ごしする作業、一つずつグラムを計って包む作業はとても時間と体力を使い、販売されている栗きんとんの値段が高いのがよく分かるくらい大変だと感じた。

こういう作業をするにしても、私達双子はすぐにけんかをしてしまう。だが、味見をさせてもらおうとすぐに笑顔になり、母が作るスイーツは笑顔にさせる魔法のようだ。

旬の食材は作るどころからではなく、採りに行くところからも楽しめる。

今年は少し遅かったが、毎年潮干狩りに行っている。父は貝類を食べるのが苦手だが、家族みんなで「採る」という作業が楽しいのではないかと思う。熊手で砂を掘った時にアサリが出てきた時の喜び、バケツにたくさん貝類が入った満足感、この貝たちをどうやって食べるのか？な

ど考えただけで、とてもワクワクする。

太陽に当たり腰を曲げて採るので、足腰が痛くなりかなり疲れるが、家族で協力し合い笑顔になる潮干狩りは、わが家にとって欠かせない行事の一つである。

ちょうど明日、岐阜の祖母に会いに行く。この時期に行くと、庭にラビッツトアイ系のブルーベリーがたくさん実っていて、祖母一人では収穫するのが大変なので、家族みんなで収穫する。

誰が一番大きな実が採れるか競争したり、採りながら食べたり、とても楽しい。

毎年3kg程度は収穫でき、一部はその場で食べたり、冷凍して残したりするが、大半はブルーベリージャムを作る。このジャム作りも母と妹と三人で作ることが多い。材料はブルーベリーと砂糖とレモン汁だが、量が多いと煮詰める時間が長くなり、どこまで煮詰めればよいか？見極めるのがとても難しい。ただこういった時は、おしゃべりしながら混ぜたりする時間がとても楽しい。

わが家では、ジャムはブルーベリーだけでなく、いちじく・ゆず・甘夏など、その季節のフルーツを使って作っている。父は食べる専門だが、毎朝のヨーグルトにジャムをかけると、美味しいと喜んでくれるのが嬉しい。

私は作る時間が長かったりすると、見学してしまうこともあるが、母は「みんなが喜んでくれるのが嬉しいから、そんなに大変ではない」と言っているのを聞き、料理は美味しいから、食べたいから、という理由だけで作るものではなく、誰かの笑顔のために作るものなのかなとも思う。

私も将来、誰かの笑顔のために、いろいろな料理作りにもチャレンジしていきたいと思う。

◎豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

お母さんへのサプライズプレゼント

牛川小学校五年 中村 紗希

わたしはアイデアを出すのが大好きです。自分の出したアイデアで人を喜ばすのも大好きなので、学校ではイベント係をやっています。夏休み前には夏まつりをきかくしました。風船や折り紙がたくさんあるのを当日出してクラスのみんなをおどろかせ、大成功でした。みんなの笑顔がわすれられませんでした。

今まで家族のたん生日や父の日、母の日のときは手紙を書いていました。でも、今年のお母さんのたん生日は少しちがうアイデアを出してみようと思いました。何をしたらお母さんは喜ぶかな。お母さんは仕事に朝早くから行って、夕方からは家事もあっていつもいそがしそうです。ばんご飯のあとのおかしの時間が気分てんかんになっているのを知っていたので、手紙と大好きなおかしをたくさんプレゼントすればきっと喜ぶと思いました。

たん生日の数日前に作戦スタートです。家の近くのスーパーに買い出しに行きます。自分のために選ぶときもまようけど、人のために選ぶのはもっとまよいます。結局三十分くらいかけて、たくさん種類のなかからお母さんの好きなチョコ、クッキー、ポテトチップスを買いました。それでもお母さんのことを考えながら選ぶ時間はすごく楽しかったです。「このおかしで喜んでくれるかな。」「そんなに喜んでくれなかったらどうしよう。」と不安な気持ちも少しあったけど、きつと喜んでくれると信じて家にもどりました。ラッピングもきれいにして、当日まで見つからな

いように部屋のすみにあるたなにしまつてじゅんぴかんりようです。

次の日、なんと、お母さんがわたしの部屋にあるものを取りに入ってきました。さがし物がなかなか見つからないお母さんはいくつかたなを開け、とうとうおかしが入っているたなとなりのたなを開けました。みつからないかと、しんぞうのドキドキが止まりません。でも、そこでさがし物が見つかったようにプレゼントが入っているたなは開けられませんでした。なんとかピンチをのがれて本当にはつとしました。

いよいよたん生日です。まずはいっしょにわたすお兄ちゃんと打ち合わせです。ドキドキはピークだけど二人なら大じようぶ。わたしはプレゼントをわたす係です。大きなふくろに入ったプレゼントをせなかにかくします。お兄ちゃんがいきおいよくリビングのドアを開けて、

「お母さん、たん生日おめでとう！」

と口をそろえて言い、プレゼントをわたしました。ごほんのかたづけをしていたお母さんはおどろいた顔をして、

「ありがとう。何だろう。」

早速ふくろを開けると、

「わあ、こんなにたくさん。おいしそうだね。」

にっこにこの笑顔のお母さんの言葉を聞いて、わたせてよかったと本当になうれしくなりました。その後みんな写真をとりました。その写真は大切なたからものです。

よくお母さんはごほんのこんだてをどうしようかまよっています。わたしたちの好きな物や栄養バランスなど、いろいろなことを考えてくれているんだと思います。わたしは今回のプレゼントをして、おこづかいをたくさんなくなってしまうけれど、それ以上にたくさんさんの幸せを感じる事ができました。他の人を笑顔にする幸せです。お母さんも、ふだんこんな気持ちでいるのかなあと少し大人になった気分でした。

次はお兄ちゃんたん生日があります。大好きなアイスを買って、ふたのところにお絵をかこうかな。考えただけでワクワクしてきました。これからも機会を見つけて人を喜ばせたいと思います。もつともつとみんなが笑顔になるといいな。

◎豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

みんなが楽しめるように

岩西小学校三年 大越 レチシア さきな

わたしは、八人家ぞくです。そして、一番下の妹は、生まれつきのなみびようがあります。

妹は、世界でもめずらしいびようきです。びよう名は長くておぼえられませんか。そのびようきのせいで、目が見えないです。それと、自分で体を動かすことができないし、口からごはんを食べることができないのではなからおやすりやごはんをいれています。それでも、耳は聞こえるし、体をさわると感じています。

妹が、びようきをもって生まれました、わたしたち兄弟が多いからお父さんとお母さんはいへんだと思いました。

でも、お父さんとお母さんは楽しそうにすごしています。お父さんが休みの日は、どうぶつ園や水遊び、公園などへつれていってくれます。どうぶつ園はあるほどつれて行ってもらいました。どうぶつ園にたくさん行っている理由は、妹のことをも考えているからです。どうぶつ園ならいろんな音やにおいを感じられてそしてどうぶつとふれあえる場所があつて目が見えない妹も楽しめると考えたからです。水遊びもそうで

す。

そうやって、お父さんとお母さんは兄弟みんなが楽しめるように考えてくれています。

家の中では、よくお父さんとびのつて遊んだりします。持ち上げてくれたりとてもおもしろいです。みんながワイワイうるさくしているのを、お母さんはおこらずうれしそうに見ています。その理由を聞いたときお母さんは、

「目が見えないからいっばいうるさくして、さびしくならないようにしようね。」

と、言いました。目が見えない妹にたくさん声と音を聞かせてあげたいと思えました。

本当に、お父さんとお母さんは、みんなが楽しめるように考えてくれています。

そのほかに、わたしはよくお父さんとお母さんにだきつくのですが、その時もお母さんたちは、わたしたち兄弟みんなのことを考えてみんなが楽しめることを考えてくれました。

「妹はみんなみたいにだきしめたい時やさわりたいうって考えていても話せないし、動けないから、それをできるだけみんなまでしてあげよう。」と、言いました。

それを聞いてわたしは、妹に毎日、話をしたり、だきしめたりしています。ほかの兄弟みんなもしています。だから、お父さんとお母さんは、もつと楽しそうにしています。

わたしも、お父さんやお母さんのように、まわりにいるみんなが楽しめるようにくふうして考えていきたいです。

これから、どうぶつ園へ行くのが楽しみです。

◎豊橋市小中学校PTA連絡協議会長賞

おねえちゃん

二川南小学校一年 仲田 こまち

わたしは三きょうだいのおねえちゃんです。

五さいのおとうとおもしろくて、二さいのいもうとはいつもにこにこです。

そんなわたしは、おねえちゃんがたいへんだとおもうことがあります。おとうとは、すぐにけんかになるし、げーむのじゅんばんをきめるときは、おとうとをさきにしなないといっしょにやれなくなってしまう。

わたしがえをかいていたら、いもうとがじゃまをします。やめてといつても、ないておこるので、けつきよくゆるしてしまいます。「きょうだいっていいね。」

とままはうけどがまんのおおいことをわかってほしいです。

でも、おとうとはわらわせてくれるし、いもうとはかわいいです。げーむをいっしょにやるにはおとうとがいないとできないし、うるさいときもあるけれどおとうとはやさしいです。いもうとは、わたしがねつなどでねていると、ふとんをかけてくれたりとしんばいしてくれます。

えがおで、このえをかいてとおねがいしてくるいもうとは、えをかいてあげたくなっちゃうくらいかわいいです。

おねえちゃんほたいへんだけど、たのしいからおねえちゃんもわるくないなとわたしはおもいます。

いま、ままのおなかにはあかちゃんがいて、らいねんうまれてくるよていなので、おとうとでもいもうとでもたのしみです。

もつとたいへんになるとおもうけど、四きょうだいのおねえちゃんがんばります。

◎豊橋南ロータリークラブ会長賞

家族との時間を大切に

石巻中学校一年 林 杏優

「お父さん、お母さんご飯ができたよ。」そう言うと二人とも笑顔で階段を降りてきて、「ありがとう」と言ってくれます。

最近のことです。「私とお父さんは仕事をしていて疲れているの。だから少しは家のことをやっておいてほしいの。もちろん全部やってならない。でも、あなたたちができる範囲でやってほしい。」とお母さんから言われました。その時は父も母も仕事から帰るのがおそいで、今思い出してみると、台所はグシャグシャで、お風呂も洗っておらず家事が何一つできていない日でした。

私の家では家事の分担など一切していません。だから誰が何をしていた方がいいんです。でも私は、お父さんや、お母さんがやるから自分は大抵ご飯ができるのを待ってればいい、お風呂が沸くのを待ってればいいと勝手に思い込んでいました。だけどあの日のお母さんの言葉で別にお父さんが、お母さんがやるんだから。ではなく、私もやることはできるだけやらないといけない、父と母の負担を減らしてあげたいと思いました。でもまず何をすればいいのだろう。いつも、父と母がやっていたことを急にやろうとしても今まで何もしていなかったのでわかりません。だからとりあえずお母さんの真似をしてご飯を作ってみました。

「ただいまー」お父さんが帰ってきてそのまた数分後にお母さんが帰ってきました。二人が私の作ったご飯を見ると驚いた顔をして「これ作ったの？」と聞いてきました。私は「うん」と言う嬉しそうにし、「おいしい」と言ってお飯を食べてくれました。「ああこうすれば良かったんだ。」私は二人の顔を見て思いました。これで、父と母の負担を少し減らすことができたと思うと嬉しいのです。ご飯を作るのは大変だったけど、父と母が笑顔になってくれると、これからもっとたくさん家のことを手伝いたいと思います。次は家の掃除、洗たくなど、できそうなものはどんどんやっけていきたいです。

家事を少しずつやっけていくにつれていい事に気づきました。それは、家族みんなで過ごす時間が増えたことです。家事を分担したりしてから家族みんなと話す時間が多くなっていき、今までよりも楽しい生活ができていく気がしました。

手伝ったり、分担したり、助け合うのはものすごく大切だなと思います。また、自分のとった行動で誰かを笑顔にすることができると感じました。やってみて良かったことをどんどん積み重ねていけばこれからの人生へのプラスになると思うのでいろんなことをやっけていきたい、試していきたいと思います。

また、家族みんなで協力することによって、時間をうまく使うことができ、家族で過ごす時間をもっと増えると思います。その時間が増えれば、増えるほど絆が深まるのではないのでしょうか。それから、自分の自由で過ごす時間を上手に使うことができれば、自分自身の大きな成長につながると思います。

今私は、家族みんなと過ごす時間が増えるように自分で考えて行動をしています。家の手伝いをして家族との時間を増やしているのはもちろん、買い物をする時などはよく一緒に行くようにして家族とたくさん会

話できるようにしています。

きっとまだまだ家族との時間を増やして明るい家庭を作るのはできると思うので探したいし、作りたいです。また友達に聞いてみて、もしいいと思ったのがあったらやっけてみたいです。

◎豊橋南ロータリークラブ会長賞

弟のあいさつ

二川南小学校五年 紅林 菜子

「おっつはよー！」

朝から、家じゅうに聞こえる大きな声で言いながら階段を下りてくる。

これは毎朝の弟のルーティーン。そのあいさつでわが家の朝は始まる、と言っても言い過ぎではないと思う。それくらい朝からびつくりするくらい元気な声。

私は、家の中では一番早起きくらい朝起きるのがとく意だけど、その時はみんなを起ささないようにそつと下におりて行って、なるべく静かに過ごすようにしているから、そんな大きな声でおはようを言ったことがあまりない。

それに、私は学校でも人前で話すのが本当に苦手で、みんなに大きな声であいさつできた事がない。声が小さすぎて聞こえてないんだなあと、思うこともよくあるのに、大きな声でなぜか言えない。自分の中で少し大きく言ったつもりでも、人からはいつもの聞こえないくらいの声と変わりにないみたい。マスクの生活の時は、全く伝わらなかつたことがたくさんあって、でも何回も言うのはもつとはずかしいし、分かっているが

らできない。弟は、朝からあんなに元氣におはようが言えるのに。

みんなを元氣にする力を持っていて、どう見てもみんなが元氣になるのが分かる。お父さんは、

「今日も元氣だなあ」

と、いつも齒をみがきながら言うし、お母さんはキッチンの手を止めて一回階段まで見に来たりする。姉だけはまだねているけど、私も弟が起きたなあ朝が来たなとその声で思う。あいさつしながら階段を下りてくるだけなのに、みんなのルーティーンまでできてきている。そしてわが家の朝が始まる。あいさつって、すごく大事なんだなってすごく感じる。

おっはよーの、小さい「つ」がいいのかな。はずんで言うとき明るい感じだし楽しそうな気持ち伝わってくる。弟に聞いてみたら、階段の何段目であいさつするって決めているらしい。夜も、

「みんなおっやすみー」

と、朝と同じようにものすごく大きな声で言いながら布団に行く。夜のテンションだとは思えないけど、これもいつもの事だから、だいたい何時かもわかるくらい。

弟の元氣が家族みんなに伝せんして、わが家のエネルギーになっている。弟のおかげでみんな仕事や学校に元氣に行けて一日ががんばれていると私は思う。

あいさつだけじゃなくて、弟がだれにでも話しかける事ができるところもわが家の元氣の素だと思う。スーパーに買い物に行ったとき、買いたいのどこにあるか分からなくてさがしながら進んでいる時、弟が店員さんに聞いたりする。いつのまにか話しかけていてひやひやする時もあるけど、みんなであとから話を聞いておどろいたりほっこりしたりしながらみんな弟をかこんで、ついみんな笑顔になってしまう。私は店員さんに聞いてみようなんて思ったことが一度もないから、その行動

力が信じられない。

それからお店でご飯を食べ終わって帰るとき、レジの人に

「ごちそうさまでしたーっ！」

と言ったりする。これは本当にすごいと思っていて、ひそかにそんけい。私は家で弟に、

「ゲームやりすぎだから目が悪くなるよ！」

「宿題早くやらないとねむくなっちゃうよ」

とか、

「給食セット用意したの？急いで！」

「早くくつはいて！」

とか、あれこれ氣になつてついでいろいろ言ってしまう。

でも本当は私にはないものをたくさん持っている弟がすごいと思っているし、弟のおかげで家族がパワーをもらったたり心を休めていると思う。思い出すと急に顔がにやけてしまうくらい大すきな弟。おかげで私は今日も元氣、家族も仲良しだよ。いつもありがとう。



えがおのためにできること

吉田方小学校三年 佐藤 淳ノ介

ぼくは、明るい家庭づくりのためにがんばっていることがたくさんあります。

その中で一番がんばってずっとつづけていることは、カレンダー作りです。

どんなことをやっているかというと、カレンダーに一月のよていを書いて、朝と学校から帰ってきた時、そして、ねる前の時間に見ています。その日にやることをかくにんして、おわたらチェックをしてお母さんに見てもらっています。

カレンダーがあると、一日の中でやらなくてはいけないことがあとどのくらいあるのが、パッと見るだけでわかるようになるので、べんりです。

カレンダーは自分だけではなくて、お母さんにも、よていややらなくてはいけないことがつたわるようになっているので、

「これはもうおわたの。あれはやったの。」

と、聞かれなくてすみます。カレンダーはぼくの分だけでなく、兄の分と家ぞくが見る分があります。

次のよていについて、

「楽しみだね。」

とみんなで話したりできるのもよいところだと思います。

カレンダー作りのほかにやっていることは、そうじや食事の前のじゅんぴなどの手つだいです。

ぼくができる手つだいは、かいだんやおふろのそうじ、食事の前にテーブルをふいて食きを持って行くことです。

そうじはごみを取りのこしていないか、ピカピカにきれいになったかどうかをかくにんしながらやっています。

食事の前のじゅんぴでは、上にのっている物をちゃんとどかせてからテーブルをふく、食きは落とすとわれてしまうのでふざけず持って行くことを気をつけています。

ぼくができることはまだ少ないけれど、お父さんとお母さんのたすけになろうと思いがら手つだっています。

手つだいをすることでありがとうと言われると、うれしい気持ちになります。

もっと「ありがとう」がふえるようにしていきたいです。

ふり返ってみると、カレンダーを見て時間をうまく使えるようにしたり、自分でできる手つだいをすることが、みんなが楽しく生活するために役に立っているということがわかりました。

これからも今できることをつづけていきながら、もっとかぞくのえがおがふえることをしていきたいです。



◎豊橋南ロータリークラブ会長賞

たんじょうびありがとう

花田小学校一年 北河 世良士

きょうは、ほくのたんじょうび。あさおきていちばんさいしょにほくは「うんでくれてありがとう。」とおかあさんにいます。おかあさんは、ここにこえがおで「おたんじょうびおめでとう、うまれてきてくれてありがとう。」といってくださいます。

ほくのかぞくは、じぶんのたんじょうびのひ、うんでくれたおかあさんに「うんでくれてありがとう。」をつたえます。おにいちゃんのたんじょうび、おにいちゃんもおかあさんに「うんでくれてありがとう。」といいます。おかあさんのたんじょうび、おかあさんはおばあちゃんに「うんでくれてありがとう。」といいます。おとうさんのたんじょうびは、おとうさんがもうひとりのおばあちゃんに「うんでくれてありがとう。」といいます。

まいとし、たんじょうびのひはしゃんやびでおをみながらおとうさんとおかあさんがうまれたひのはなしをしてくれます。ほくはそのおはなしをきくのがだいすきです。ほくがうまれたひ、とよはしではめずらしく、つもるほどのおおゆきがふったひだったそうです。ほくがうまれるとき、おかあさんはいたくていたくて「はやくでてきてー。」とおなかのなかにいたほくにいったそうです。ほくはおほえています。でも、ゆつくりうまれてきたほくをはじめてだっこしたとき「かわいくて、かわいくて、いたかったことなんてわすれちゃったよ。」とおかあさんは、にっこりえがおでおしえてくれました。



「おかあさんたちはみんな、十かげつおなかのなかでたいせつにたいせつにあかちゃんをそだてて、いたみとたたかっつてがんばってがんばってみんなをうんでくれるんだよ。」とおかあさんがおしえてくれました。だから、たんじょうびのひは、がんばってがんばってほくたちをうんでくれたおかあさんにたくさんたくさん「うんでくれてありがとう。」のきもちをつたえるひです。おかあさん、うんでくれてありがとう。

壁新聞の部

シュート!

豊小学校2年 澤野 瑛斗

2023年8月25日

シュート

第2号

リフティングの たっじん



リフティングのたっじん

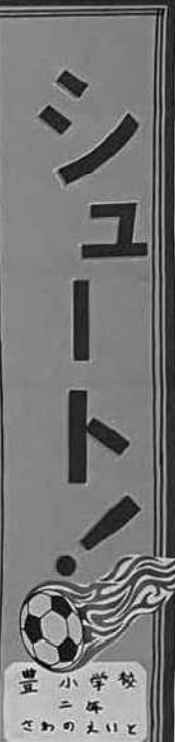
ぼくの 大好き あつまれ!

ぼくのパパは、今年の十月からかな川に引っ越して来ました。パパが引っ越しを済ませた後、話しがなかなかできなくて、ママがいろいろ話をしてくれました。ママがいない間は、三人で遊ぶことができませんでした。ぼくが来て、毎日お話を聞いて、ママが話をしてくれました。

ママがいない間は、三人で遊ぶことができませんでした。ぼくが来て、毎日お話を聞いて、ママが話をしてくれました。

パパが かえって きつた!

かな川に引っ越して来たパパが、よほしにきつて来ました。ぼくは、パパが引っ越して来た後、話しがなかなかできなくて、ママが話をしてくれました。ママがいない間は、三人で遊ぶことができませんでした。ぼくが来て、毎日お話を聞いて、ママが話をしてくれました。



五月十三日、ぼくは、リフティング大会がありました。前日から練習したのと同じように、早く目をさめて練習しました。

わくわくドキドキ はじめてのサッカー大会

五月十三日、ぼくは、リフティング大会がありました。前日から練習したのと同じように、早く目をさめて練習しました。

パパの会社のいむしゃに入社して、おしごとが忙しくなりました。ぼくは、パパが引っ越して来た後、話しがなかなかできなくて、ママが話をしてくれました。ママがいない間は、三人で遊ぶことができませんでした。ぼくが来て、毎日お話を聞いて、ママが話をしてくれました。

かぞくが ふえました!

夏休み中、ぼくの家の前にいたカナヘビを、つかまえて飼うことにしました。カナヘビがたべものを探して、バツグンに食べてくれました。さっしや、たべものがあつきました。えさたんぱくは、たべたてのたまごです。

大会が始まると、コートから各チームの選手が、さっしやと、おしごとが忙しくなりました。ぼくは、パパが引っ越して来た後、話しがなかなかできなくて、ママが話をしてくれました。ママがいない間は、三人で遊ぶことができませんでした。ぼくが来て、毎日お話を聞いて、ママが話をしてくれました。

大会が始まると、コートから各チームの選手が、さっしやと、おしごとが忙しくなりました。ぼくは、パパが引っ越して来た後、話しがなかなかできなくて、ママが話をしてくれました。ママがいない間は、三人で遊ぶことができませんでした。ぼくが来て、毎日お話を聞いて、ママが話をしてくれました。

パパの会社のいむしゃに入社して、おしごとが忙しくなりました。ぼくは、パパが引っ越して来た後、話しがなかなかできなくて、ママが話をしてくれました。ママがいない間は、三人で遊ぶことができませんでした。ぼくが来て、毎日お話を聞いて、ママが話をしてくれました。

夏休み中、ぼくの家の前にいたカナヘビを、つかまえて飼うことにしました。カナヘビがたべものを探して、バツグンに食べてくれました。さっしや、たべものがあつきました。えさたんぱくは、たべたてのたまごです。

あとがき

二回目の新聞作りは、スムーズにできました。リフティングがうまくなつてうれしかったです。

この間のサッカー日本代表の活躍が、とても感動しました。おしごとが忙しくなりました。ぼくは、パパが引っ越して来た後、話しがなかなかできなくて、ママが話をしてくれました。ママがいない間は、三人で遊ぶことができませんでした。ぼくが来て、毎日お話を聞いて、ママが話をしてくれました。

この間のサッカー日本代表の活躍が、とても感動しました。おしごとが忙しくなりました。ぼくは、パパが引っ越して来た後、話しがなかなかできなくて、ママが話をしてくれました。ママがいない間は、三人で遊ぶことができませんでした。ぼくが来て、毎日お話を聞いて、ママが話をしてくれました。

サッカーの いむしゃ

ぼくは、夏休み中にカナヘビを飼うことにしました。カナヘビがたべものを探して、バツグンに食べてくれました。さっしや、たべものがあつきました。えさたんぱくは、たべたてのたまごです。

壁新聞の部

えがお

豊南小学校6年
豊南小学校4年
豊南小学校2年

柳谷 柳
谷 柳
谷 柳

海直 明直 旺 駕

令和5年 8月31日

えがお

第4号

廃材に新たな命を

和が家オリジナル 人生ゲームを作ろう

えがお

めがせ!!
九九マスター

かけさんて
たしごんのの?

いこうか
いこうか
いこうか

9のたんだから
9をなんかい
たせばいいのかな

九九のたんだから
9をなんかい
たせばいいのかな

我が家では、長期休みになると必ず家族みんなでボードゲームをして楽しんでいました。

私たちが家族は、人生ゲームが大好きです。実際に、様々なパターンの人生ゲームを持っていきます。今年の夏は家族や親せきに贈るようなものを、我が家がオリジナルの人生ゲームを作ろうと決まりました。

最初は、ボードゲームの作り方を調べて、簡単なボードゲームを作りました。最初は、ボードゲームの作り方を調べて、簡単なボードゲームを作りました。

最初は、ボードゲームの作り方を調べて、簡単なボードゲームを作りました。最初は、ボードゲームの作り方を調べて、簡単なボードゲームを作りました。

お金のやばいを作った
り、たてでコマを作
たり、乗せる人や家に
立てる旗とクワガタに
したりと協力しながら
完成しました。

お金のやばいを作った
り、たてでコマを作
たり、乗せる人や家に
立てる旗とクワガタに
したりと協力しながら
完成しました。

お金のやばいを作った
り、たてでコマを作
たり、乗せる人や家に
立てる旗とクワガタに
したりと協力しながら
完成しました。

お金のやばいを作った
り、たてでコマを作
たり、乗せる人や家に
立てる旗とクワガタに
したりと協力しながら
完成しました。

八月一日から、はあ
ちやんの家にはいって
お盆明けまでです。お
盆明けまで、ぼくは
同じ四年生の仲子と
んとテントのやちやん
ことになりました。

八月一日から、はあ
ちやんの家にはいって
お盆明けまでです。お
盆明けまで、ぼくは
同じ四年生の仲子と
んとテントのやちやん
ことになりました。

八月一日から、はあ
ちやんの家にはいって
お盆明けまでです。お
盆明けまで、ぼくは
同じ四年生の仲子と
んとテントのやちやん
ことになりました。

飛鳥時代に in 奈良
タイムスリップ

飛鳥時代に in 奈良
タイムスリップ

夏バテ
みんぱり
スイーツ

夏バテ
みんぱり
スイーツ

夏バテ
みんぱり
スイーツ

夏バテ
みんぱり
スイーツ

夏バテ
みんぱり
スイーツ

壁新聞の部

「審査員講評」

◎作文の部（小学生）

小野 浩史

今年も多くの心温まる素敵な作品と出会うことができました。
一年生は、家族とのふれあいや家族のために自分ができることを考え、実行している作品が多くありました。その経験を通して考えたことが生き生きとした表現で描かれていました。

市長賞の作品は、三歳の妹が、四人兄弟の三番目の自分だけにちよつかいをかけることに困惑していた作者の気持ち、母の言葉にはっとし、妹をますますかわいと感じる気持ちへと変化していく心温まる作品です。

三年生では、体を動かすことや動物との関わり等を通して、家族の笑顔を喜ぶ様子が素直に表現されていました。また、体の不自由な祖母や弟妹との暮らしに自分の役割を見出している姿に、温かい絆の強さを感じました。

市長賞の作品は、家族で一日を振り返る時間をもつことで、思いを分かち合う様子が会話文を通して心深く綴られており、明日への力を育む家庭の温かさが伝わってきました。

五年生では今年も、明るい家庭を築くために工夫していることや努力していることを述べてくれる作品が多く見られました。また、家族の喜ぶ顔を見ようと頑張る姿や、家族の病氣や入院時に協力し合う姿が描かれる作品も見られました。

市長賞の作品は、じいじやばあばとのやり取りを通して、今を大切に生きることの意味を深く考え、さらに自分のできることを探していることとする姿に作者の心の成長が感じられました。文章を書くことは、物事を見つめる目を研ぎ澄ますことです。書くことで自分の考えが深まり、今まで見ていても気づかなかった新しいことが見えてきます。ぜひこれからも書くことを通して自らの家庭生活を見つめ、高めていって下さい。

◎作文の部（中学生）

安間 津八子

中学生の部では、一年生一三九名の皆さんの作品が寄せられました。そこには、家族からの深い愛情を感じながら、家族の一員として自身にもできることをしていきたいという思いがあふれ、それを生き生きとした感性で表現している作品が多く見られました。

市長賞の紅林さんは、家族とのふれあいの時間をもうと奮闘するお父さんの姿を明るくユーモラスに表現しています。作者は、本物のお店には及ばないとしながらも、「お父さん食堂」のモットーである「温度と情緒」にすっかり引き込まれ、それが、いつしか家族の一体感を生み出していることに気づくのです。言葉には直接出さずとも、お父さんへの感謝や尊敬の気持ち、そして、家族を思い合う優しさや温かさがあふれる素敵な作品になりました。

市議会議員賞の赤谷さんは、病氣のために梅干しづくりができなくなった祖母の代わりに、その味の再現に挑戦する様子を綴っています。祖母の梅干しのおいしさは、「特別な何か」を入れてあるわけではなく、「食べてくれる人のことを思いながら」作ることにあり至ったのです。梅干しづくりを通して、改めて祖母の作者への深い愛情に気づかされた様子が、飾らない文体や言葉で素直に表現されています。作品を読ませていただく、体験や思いを文章にまとめることで、家族や自分につながる人々との絆の大切さや命の尊さなどに気づいていることがわかります。ぜひ、自信をもって、自らの成長を感じ取ってほしいと思います。

◎壁新聞の部

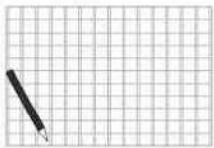
小山 勝信

壁新聞の部には、低学年三九点、高学年九五点、合わせて一三四点の作品が応募されました。どの作品も、家庭の良さや家族の協力の様子が発信されていて、楽しくときには感動しながら読ませていただきました。応募作品を低学年の部と高学年の部に分け学年を考慮し、忠実性、内容（創造性・企画性）、表現（豊かさ・正確さ）の選考基準で審査しました。

低学年市長賞「わくわく」は、内容で高い評価を得ました。トップ記事は「わたしのはじめのチャレンジ」「すきなことがし」の見出しをつけ、卓球、日本舞踊、福祉体験に初めてチャレンジした様子を記事にしました。二番記事、三番記事、カコミ記事にも「チャレンジ」の言葉があり、色んなことを見て聞いてやって「すき」を見つけようという家庭の考えで、全ての記事をまとめたのは見事でした。

高学年市長賞「そらかな」は、見やすく読みやすい新聞でした。短くてすっきりとした見出しは、作者の気持ちや上手く込められていて、よく言葉を選んでいると感じました。また、分かりやすい紙面レイアウトも高評価でした。令和五年二月の「明るい家庭づくり推進大会」のとき、二番記事の見出しと右下のカコミ記事を離して区別するレイアウトについて説明しました。そのことを理解した上で、紙面レイアウトをよく考えていると思いきや嬉しくなりました。

応募作品の中には、横書き（横組み）の新聞が何点ありました。内容は良かったのですが、不規則な組み方向の紙面で、入賞まであと一歩という作品もありました。日本語の新聞では横組みの例はほとんどありませんが、身近な広報紙の中には横組みのものがあります。そういつたものを参考に、読みやすさを意識して、横組みの新聞作りに再挑戦してほしいと思います。



壁新聞作成のポイント



家族で楽しく新聞をつくりましょう

新聞づくりは時間がかかりますが、作品ができあがったときのうれしさは格別です。家庭で話し合いながら作れば、家族の絆も今以上に太く強くなるはず。難しいところもありますが、とにかく楽しみながら作りましょう。

複数の記事を一枚の紙面に掲載しています。一つ一つの記事が区別できるように、紙面をレイアウト（記事や写真の割付）します。レイアウトの基本はX型、紙面右上から左下へと流れていきます。見本を参考にして、たくさんの人が読むことを意識して、読みやすくてきれいな作品を仕上げましょう。

第〇号 ○○○○ ○〇年〇〇月〇〇日

ヘッダー：新聞名(題字)や発行日、号数を書く。

題字：自分の思いがこもった新聞名を決める。「さわやか」「きずな」などと、「〇〇新聞」と「新聞」をつけないのが一般的。

題字下：発行年月日、学校名、学年・組、発行者名などを小さめの字で記入する。

見出し：記事の内容を表す短い言葉、記事を書いた後の方がつけやすい。客観的な見出しは面白みに欠け、主観的な見出しは記事の内容が分かりにくいので、上手く組み合わせるとよい。大きな見出しが、かぎ見出し。太目の字やレタリング、色づかいで目立たせるとよい。

リード：記事の内容を短い文で要約したもの。「新聞は、見出しとリードと本文で三度読ませる」。

トップ記事：家族の良いところ、家族での取り組み、自分の思いや家族の願いを伝える記事を書く。トップ記事は、記事のスペースが広く、大きな見出し、リードがついている。

キャプション：写真などに短くコメントを加えると分かりやすい。

カコミ記事：面白い出来事や失敗談など、軽めの記事を載せる。カコミの線は飾り罫線で一文字分使う。飛び越し、飛び降り、文字無し、何でもあり。

編集後記：家族での取り組みを行った感想や、新聞を作った感想などを記す。

枠罫線：紙面の外側に線を引くと紙面がひきしまる。段罫線や枠罫線は、清書が終わり仕上げの最後に引くとよい。

段罫線：段と段の間に細い横の罫線を引くと読みやすくなる。カコミ記事の中は、段罫線を引かないのが一般的。記事を区別する線ではない。間違えやすいので注意して引く。

写真やイラスト

編集後記

カコミ記事

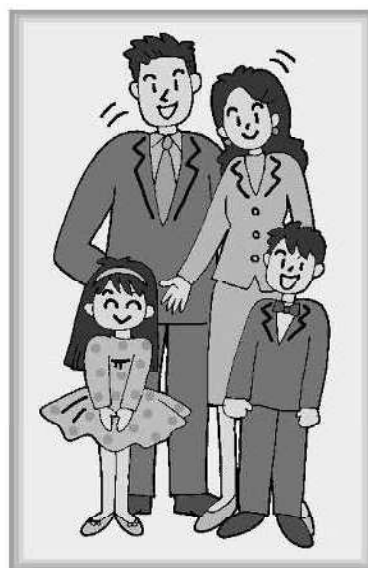
第41回 明るい家庭づくり推進大会

令和6年2月4日（日）午後1時30分
豊橋市 公会堂

〈主 催〉
豊橋市 豊橋市教育委員会
豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会 豊橋南ロータリークラブ

プログラム

- ◆ 開 会
- ◆ 主催者あいさつ
- ◆ 来賓祝辞
- ◆ 豊橋市長賞作品発表
- ◆ 表彰式
 - ・ 豊橋市長賞
 - ・ 豊橋市議会議長賞
 - ・ 豊橋市教育委員会賞
 - ・ 豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会長賞
 - ・ 豊橋南ロータリークラブ会長賞
 - ・ 豊橋南ロータリークラブ賞
- ◆ 閉 会



壁新聞の優秀作品と 入選作品を豊橋市公会堂で展示します！

壁新聞の優秀作品は、以下の日程・場所でもご覧になれます。
令和6年2月5日（月）～2月15日（木） こども未来館こここ 1階ギャラリーストリート

毎月第3日曜日は「家庭の日」

話さなくてもわかり合える関係を築くのは、簡単そうで難しいものです。
夫婦間、親子間で何でも話せる家庭づくりには、あいさつや日々の会話を
増やしていくことが大切です。
さあ！はじめましょう。あなたの家の「家庭の日」。

毎月第3日曜日は『家庭の日』

**令和5年度
明るい家庭づくり優秀作品集**

発行 令和6年2月4日
編集 豊橋市教育委員会生涯学習課
(☎ 51-2846)